

# 地域 リハビリテーション学

contents

第2版

## ● 序

重森健太, 横井賀津志

## 第1章 総論

<b>1 地域リハビリテーションの概念</b>	井口 茂	14
<b>1 地域リハビリテーションの歴史と概念</b>		14
1) 地域リハビリテーションの歴史 2) 地域リハビリテーションの考え方 3) 地域リハビリテーションの定義と活動指針		
<b>2 地域リハビリテーションの範囲</b>		19
1) 地域の捉え方 2) ケアの範囲と地域リハビリテーション 3) 医療・保健・介護からみた地域リハビリテーションの範囲		
<b>3 地域のなかでのリハビリテーションの位置づけ</b>		20
1) 保健医療圏における地域リハビリテーション 2) 地域包括ケアと地域リハビリテーション 3) 地域リハビリテーションにおける「障害」の捉え方		
<b>4 ノーマライゼーション</b>		23
1) ノーマライゼーションの歴史と定義 2) ノーマライゼーションの基本原則 3) 日本におけるノーマライゼーション		
<b>5 ソーシャルインクルージョン</b>		24
1) ソーシャルインクルージョンの理念と背景 2) ソーシャルインクルージョンとノーマライゼーションおよび地域リハビリテーション		
<b>6 専門職連携</b>		25
1) 専門職連携の定義と必要性 2) 地域リハにおける専門職連携 3) 地域リハにおけるリハビリテーション専門職の役割		
<b>7 世界の動向</b>		26
1) CBRの歴史と考え方の変遷 2) CBRの定義と構成要素 3) CBRの実践方法 4) CBRの実践とわが国の地域リハビリテーションの相違		
<b>2 地域理学療法の概念</b>	大杉紘徳	29
<b>1 地域理学療法とは</b>		29
1) 地域リハビリテーションと地域理学療法 2) 地域理学療法における「地域」とは 3) 理学療法士の就職先の変遷 4) 診療報酬・介護報酬の改定 5) 今回の介護報酬の改定による医療提供施設所属理学療法士の介護保険分野への介入		

<b>2 地域における理学療法士の役割</b>	35
1) 連携 2) 各現場の視点からみた地域における理学療法士の役割	
<b>3 地域における理学療法士の現状と今後の展望</b>	40
1) 「地域理学療法」に対する誤解 2) 現状の「地域」をみた理学療法のあるべき姿 3) 今後の展望	
<b>3 地域作業療法の概念</b>	42
<b>1 地域作業療法とは</b>	42
1) 地域作業療法の捉え方 2) 地域作業療法とヘルスプロモーションの関係	
<b>2 地域における作業療法の役割</b>	44
1) 作業的権利の尊重 2) 作業ニーズの把握	
<b>3 地域における作業療法の現状と今後の展開</b>	46
1) 地域作業療法の現状と課題 2) これからの地域作業療法	

## 第2章 地域リハビリテーションの関連制度と関連法規

高森聖人

<b>1 医療保険制度</b>	50
1) 医療保険制度の概要 2) 医療保険制度のしくみ	
<b>2 介護保険制度</b>	53
1) 介護保険制度の概要 2) 介護保険制度のしくみ 3) 介護サービスの種類	
<b>3 障害者総合支援法</b>	58
1) わが国の障害者福祉制度の変遷 2) 障害者総合支援法の概要 3) 自立支援給付 4) 地域生活支援事業 5) 障害児に対する福祉サービス 6) 自立支援協議会	
<b>4 バリアフリー新法</b>	64
1) 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」の制定 2) バリアフリーコンフレクト	
<b>5 地域における社会資源</b>	66
1) 特別支援教育 2) 生活困窮者自立支援制度	
<b>6 地域包括ケアシステム</b>	68
1) 地域包括ケアシステムとは何か 2) 地域包括ケアシステムの構成要素 3) 4つの「助（自助・互助・共助・公助）」 4) 地域ケア会議 5) 地域共生社会の実現に向けて	

## 第3章 住環境と福祉用具

小林貴代

<b>1 住環境評価</b>	74
1) 優しく安全な環境づくり（バリアフリー） 2) 安全を守るための分析（動作分析・事故分析・リスクマネジメント） 3) ヒヤリハット事例	
<b>2 住環境整備</b>	75
1) 在宅における介護保険制度の利用 2) 介護保険法における住宅改修 3) 介護保険法における福祉用具の貸与・購入 4) 在宅における住宅改修事例	

<b>3 住環境整備の手法</b>	78
1) 略式平面図 2) 手すり・扉などの種類を知る 3) 入浴関連設備を知る 4) 排泄関連設備を知る 5) 段差解消関連設備を知る 6) コミュニケーションと環境制御関連設備を知る 7) QOL（趣味活動など）関連設備を知る	
<b>4 福祉用具と住環境</b>	84
1) 車いす利用者の手の届く範囲 2) 車いすのサイズ 3) 車いすに必要な住環境のポイント 4) 杖・歩行器のサイズと住環境への配慮 5) 福祉用具の貸与（レンタル）との組合せ	
<b>5 ユニバーサルデザインと住環境</b>	88
1) ユニバーサル商品 2) 自助具 3) 町づくりのデザイン	
<b>実習課題：自宅を評価する</b>	90

## 第4章 地域におけるリスクマネジメント

山野 薫

<b>1 地域におけるリスクマネジメント</b>	91
1) リスクマネジメントの概要 2) 医療や福祉における「質保証」とリスクマネジメントの関係 3) リハビリテーションにおけるリスクマネジメントの概要 4) 地域リハビリテーションにおけるリスクマネジメントの考え方	
<b>2 リスクマネジメントに必要な知識と技術</b>	95
1) 対象者（身体状況）に関するリスクマネジメント 2) 環境のリスクマネジメント	
<b>3 リスクマネジメントからみたバリアフリーとユニバーサルデザイン</b>	104
<b>実習課題：地域マップづくり</b>	107

## 第5章 地域リハビリテーションプロセス

高畠進一

<b>1 地域リハビリテーションのプロセス</b>	109
1) プロセスとは何か 2) 地域リハビリテーションの定義・推進課題・活動指針から考えるプロセス 3) 地域リハビリテーションには2種のプロセスがある	
<b>2 地域リハビリテーションにおける評価</b>	111
1) 何のために評価するのか 2) 何を、どのような観点から評価するのか	
<b>3 地域リハビリテーションにおける目標設定</b>	116
1) 第1のプロセスにおける目標設定 2) 目標設定における療法士の役割 3) 第2のプロセスにおける目標設定	
<b>4 地域リハビリテーション計画の立案と実施</b>	118
1) 個人ヘルリハビリテーションサービスを提供するプロセス 2) 療法士の役割	

## 第6章 地域リハビリテーションの実際

### I 地域理学療法の実際

<b>1 訪問系理学療法</b>	122
1) 地域リハビリテーションのなかでの訪問系理学療法の位置づけ	122

<b>2 訪問系の理学療法士に求められる役割</b>	124
1) 訪問系理学療法で対象となる傷病およびリハビリテーション計画 2) ゴール設定や思考過程 3) 専門職連携	
<b>3 訪問系理学療法での評価・治療</b>	127
1) 訪問系理学療法での評価 2) 訪問系理学療法での治療介入	
<b>4 訪問理学療法の実際</b>	129
■ 実習課題：片麻痺の生活体験	132
<b>2 通所系理学療法</b>	大田尾 浩 134
<b>1 利用者の背景</b>	134
1) 通所介護（デイサービス） 2) 通所リハビリテーション（デイケア）	
<b>2 通所系理学療法の目的</b>	135
1) 理学療法の目的 2) 在宅生活を維持するための理学療法	
<b>3 通所系理学療法の評価・治療</b>	137
1) 理学療法評価と目標値 2) 自主練習に取り組んでもらうために	
<b>4 通所系理学療法の実際</b>	139
1) 脳卒中片麻痺の利用者の評価と治療 2) 大腿骨頸部／転子部骨折術後の利用者の評価と治 療 3) 慢性心不全の評価と治療	
■ 実習課題：生活範囲の狭小化の意味を理解する	142
<b>3 施設系理学療法</b>	合田明生 143
<b>1 施設系理学療法とは</b>	143
<b>2 介護老人保健施設における理学療法</b>	143
1) 概要 2) リハビリテーションマネジメント 3) 介護老人保健施設における理学療法のポ イント	
<b>3 特別養護老人ホームにおける理学療法</b>	149
1) 概要 2) リハビリテーションマネジメント 3) 特別養護老人ホームにおける理学療法の ポイント	
■ 実習課題：転倒予防策の検討	155
<b>4 終末期における理学療法</b>	岡本加奈子 156
<b>1 「終末期」は「人生の最終段階」</b>	156
<b>2 終末期における疾患</b>	156
<b>3 終末期と終の棲家（看取りの場）</b>	157
<b>4 全身状態の管理を目的とした理学療法プログラムとリスク管理</b>	159
<b>5 終末期における理学療法の実際</b>	159
1) 特養での終末期に状態の悪化と寛解をくり返した症例 2) 在宅で対象者を看取った事例	
■ 実習課題：長時間の同一姿勢による不快感の体験	165

## II 地域作業療法の実際

<b>1 訪問系作業療法</b>	福田久徳	166
<b>1 目標設定の重要性</b>		166
<b>2 作業遂行の評価と分析</b>		167
1) 課題分析 2) 遂行分析		
<b>3 目標を達成するための介入モデルの選択</b>		168
<b>4 訪問系作業療法の実際</b>		169
1) 脳血管疾患の事例 2) 内部疾患の事例 3) 整形疾患の事例 4) 難病疾患の事例		
<b>実習課題：生活環境の評価</b>		174
<b>2 就労支援としての作業療法</b>	宮崎宏興	175
<b>1 就労支援の現状と動向</b>		175
<b>2 障害者の雇用と就労の制度</b>		176
1) すべての障害者が利用できる雇用と就労の支援制度 2) 精神および発達障害者・難治性疾患者や、在宅勤務者ごとに利用できる施策 3) その他、障害者に限定されない、一般求職者への支援制度 4) 障害者総合支援法に基づく就労支援にかかる障害福祉サービス事業		
<b>3 障害者の雇用と就労を実践するために</b>		183
1) 個別就労支援プログラム (Individual Placement and Support : IPS) 2) 仕事仲間との協業 (チームビルディング) 3) 仕事との相性 (ジョブマッチング) 4) 職務開発と仕事の切り出し (ジョブカービング・ジョブクリエーションなど) 5) 雇用企業の開拓 6) 雇用における労働条件や雇用継続 (雇用管理支援)		
<b>4 就労支援現場の実際</b>		185
1) 職務経験がなく不安が強かった事例 2) 事例のその後 3) まとめ		
<b>5 おわりに</b>		187
<b>実習課題：就労支援体験</b>		188
<b>3 学校および保育所等訪問支援における作業療法</b>	岩永竜一郎	189
<b>1 はじめに</b>		189
<b>2 学校や保育園・幼稚園支援の事業</b>		189
1) 障害児等療育支援事業 2) 保育所等訪問支援事業 3) 学校への巡回相談 4) 外部専門家活用事業		
<b>3 学校や幼稚園などの支援の実際</b>		190
1) 巡回相談によるかかわり 2) 外部専門家活用事業による特別支援学校へのかかわり 3) 幼稚園・認定子ども園へのペアレント・プログラムを用いたかかわり		
<b>4 学校・保育園・幼稚園支援で必要なリハビリテーション技術</b>		193
1) 障害の特性を短時間に把握するスキル 2) 発達障害およびその他の精神疾患に関する知識 3) 多様な評価技術		
<b>5 特別支援技術</b>		194
1) 参考となる支援方法 2) 教育以外の対応方法 (薬物治療、療育機関での対応) に関する知識 3) 面談技術 4) 地域の社会資源に関する知識と地域のネットワーク		

<b>6</b>	学校・保育園・幼稚園支援にかかわる専門家に求められること	195
1)	ジェネラリストモデル 2) 教師・保育士との連携	
<b>7</b>	おわりに	196
	実習課題：巡回相談の模擬体験	197
<b>4</b>	終末期における作業療法	島崎寛将 198
<b>1</b>	終末期とは	198
1)	終末期という時期 2) 終末期を迎える時期のギアチェンジ	
<b>2</b>	終末期に対象者が経験する苦痛	199
1)	全人的苦痛（トータルペイン） 2) 疾患に伴う特徴	
<b>3</b>	終末期における作業療法	202
1)	終末期における作業療法の目標 2) 作業療法アプローチ	
<b>4</b>	自分自身（医療者側）のケア	205
<b>5</b>	終末期における作業療法の実際	205
1)	事例紹介 2) 作業療法評価および経過 3) おわりに	
	実習課題：終末期に大切なものを考える	208

## 第7章 予防分野のリハビリテーション

<b>1</b>	サルコペニアと介護予防	山田 実 209
<b>1</b>	はじめに	209
1)	介護予防とは 2) サルコペニア、フレイルとは	
<b>2</b>	サルコペニアの理解	211
1)	サルコペニアの判定 2) サルコペニアのメカニズム	
<b>3</b>	世界の動向（システムティックレビュー）	214
1)	フレイルに対する運動介入の効果 2) サルコペニアの予防・改善効果	
<b>4</b>	わが国における介護予防の実際	218
<b>5</b>	介護予防教室運営のコツと実践例	220
1)	遠隔通信式介護プログラム 2) 効果の実感が重要 3) セラピストに期待されること	
<b>6</b>	おわりに	221
<b>2</b>	認知症予防	牧迫飛雄馬 224
<b>1</b>	世界の動向（文献レビュー）	224
1)	健常者に対する運動介入の効果 2) MCIに対する運動介入の効果 3) 認知症に対する運動介入の効果	
<b>2</b>	わが国における認知症予防の実際	229
1)	認知症予防のターゲット 2) 認知症発症のリスクが高い高齢者のスクリーニング 3) 認知症予防のための多面的な運動プログラムの概要 4) MCI高齢者に対する多面的なプログラムの効果	

<b>③ 認知症予防教室運営のコツと実践例</b>	233
1) プログラムの構造化 2) 各プログラム構成要素における実践留意点および実践のコツ 3) 予防教室の運営における留意点	
<b>③ 転倒予防</b>	242
<b>① 世界の動向（文献レビュー）</b>	242
<b>② わが国における転倒予防の実際</b>	244
1) 転倒予防の必要性 2) 運動機能の評価 3) ADLの評価 4) 活動性の評価 5) 精神心理・認知面の評価 6) 転倒予防の介入を実施するにあたっての注意事項 7) 転倒予防のための介入 8) 介入の効果 9) 介入効果を継続させるための工夫	
<b>③ 転倒予防教室運営のコツと実践例</b>	250
1) 対象者募集の工夫 2) 介入方法の実際 3) 介入方法の工夫	
<b>④ 作業を用いた健康への貢献</b>	254
<b>① 世界の動向</b>	254
1) 作業を用いて健康に貢献するとは? 2) 作業的に健康であるということ 3) 文献レビュー	
<b>② 地域における作業療法の実際</b>	255
<b>③ 作業を用いた健康教室運営のコツと実践例</b>	257
1) 作業を用いた健康教室運営のコツ 2) 作業を用いた健康教室運営の実践例	

## 第8章 行政における療法士の役割

逢坂伸子

<b>① 行政療法士の役割機能</b>	263
<b>② 行政療法士が従事している分野</b>	265
1) 子どもに関する分野 2) 障害者に関する分野 3) 高齢者に関する分野 4) その他	
<b>③ 地域包括ケアにおける行政療法士の役割</b>	267
1) 地域包括ケアの5つの視点による取り組み	
<b>④ 地域包括ケアの取り組み事例</b>	268
1) ケアマネジャーに対するリハビリテーション教育 2) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の同職種連携 3) 介護予防活動：住民主体の介護予防	
<b>⑤ 行政療法士が備えるべき知識と技術</b>	273
1) コーディネイト力とマネジメント力 2) 地域評価からPをはじめる	

## 第9章 地域の防災と災害支援

小野部 純

<b>① 災害時のチーム医療（リハビリテーション専門職の役割）</b>	277
1) 災害時の医療活動 2) 災害と防災の定義 3) 災害発生時の医療 4) リハビリテーション支援活動の目的と意義 5) 関連団体・行政などとの連携 6) 災害支援チームのあり方 7) 情報の一元化と共有化	
<b>② リハビリテーション専門職ができる災害支援</b>	283
1) リハビリテーション職の専門性について 2) 評価と情報の管理・共有 3) 各災害フェーズでのリハビリテーション専門職の役割	

<b>③ 防災訓練でリハビリテーション専門職が備えるべき知識と技術</b>	292
1) 一般的な防災知識と技術 2) リハビリテーション専門職として備えるべき防災知識と技術	

## 第10章 地域での起業と社会貢献

<b>1 地域で求められる療法士の起業</b>	福谷直人	294
<b>① 起業とは</b>		294
1) 日本の開業率と国際比較 2) 企業生存率 3) 全国における起業家の推移と起業の目的・きっかけ 4) 療法士が地域で起業する意味		
<b>② 起業に必要なステップ</b>		300
1) チーム 2) マーケット 3) プロダクト・サービス 4) 資金		
<b>③ おわりに</b>		302
<b>2 理学療法士の起業の実際</b>	山口良太	303
<b>① 起業の準備</b>		303
1) 意志と覚悟 2) 事業計画書の作成		
<b>② 地域包括ケアシステムに貢献する起業の実際</b>		305
1) 「共助」「公助」「自助」「互助」4つのセグメンテーション 2) 地域密着型通所介護事業所の運営 3) 総合事業による通所介護サービスの運営 4) 「互助」を事業化する難しさ		
<b>③ 保険外事業の実際</b>		309
1) 保険外事業を行ううえでの注意点 2) 地域密着型デイを拠点とした「自助」サービスの実際 3) ソフトウェアを用いた「自助」「互助」への参画		
<b>④ 運営に伴うリスク</b>		311
<b>⑤ 理学療法士が起業する社会的な意義</b>		311
<b>3 作業療法士の起業の実際</b>	関本充史	313
<b>① 起業するにあたって</b>		313
1) 心構え 2) 斬新な考え方（創造すること） 3) 人としての自己管理		
<b>② 生活行為向上マネジメント（MTDLP）の有効活用</b>		314
<b>③ SPDCAサイクル</b>		315
<b>④ 地域のネットワーク（地域が活き活きするしくみづくり）</b>		318
1) 地域資源 2) 活きたネットワークづくり		
<b>⑤ 起業後の作業療法の実際</b>		319
1) 新たな事業展開～パーキンソン病に特化したデイサービス～ 2) パーキンソン病とは 3) 通所介護事業所「PDリハビリデイサービス かなえるLIFE」開設 4) 家族への支援		
<b>⑥ おわりに</b>		322
<b>コラム 認知症ケアパスと認知症初期集中支援チーム</b>	松下 太	323
<b>● 索引</b>		325